

発行元：新島村農業委員会事務局（新島村産業観光課内） ☎（5）0284（直通）

令和6年度 農業委員会だより

目指せ！

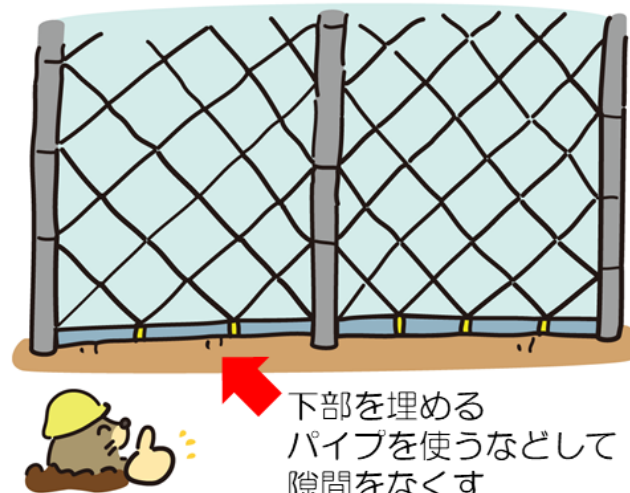
防鹿ネットを確認して
農作物をシカから守ろう！相談窓口：新島村役場
産業観光課 04992-5-0284農作物
被害

0!!

チェック1



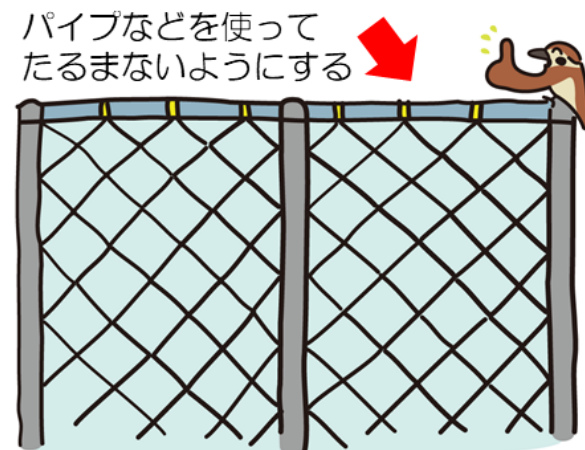
ネットの下部に隙間があると

シカが
くぐる！下部を埋める
パイプを使うなどで
隙間をなくす

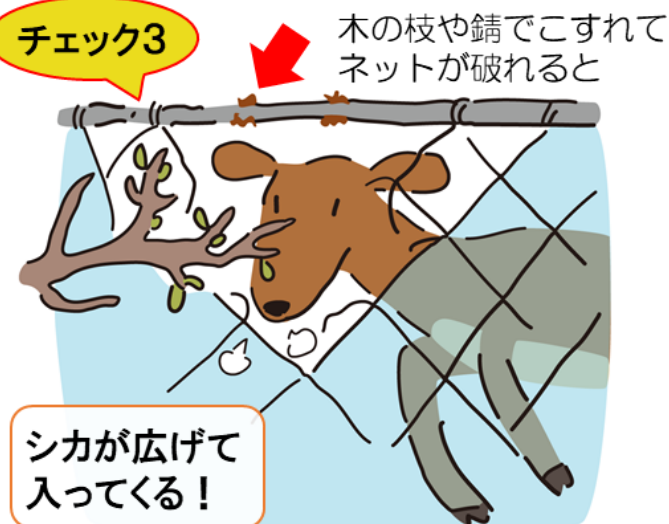
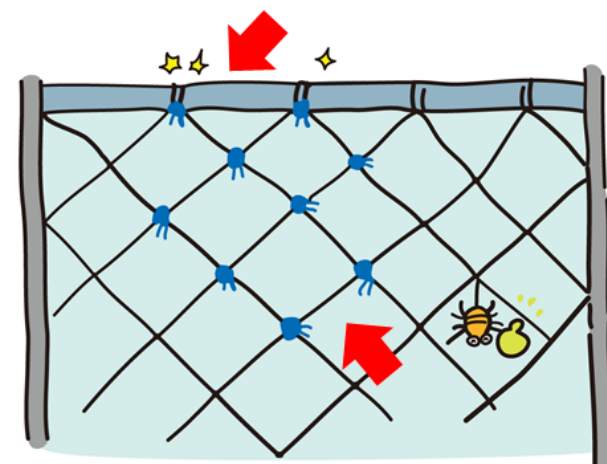
チェック2



上部に弛みがある

シカが
乗り越える！パイプなどを使って
たるまないようにする

チェック3

木の枝や錆でこすれて
ネットが破れるとシカが広げて
入ってくる！

補修、張替えをする

▼受賞者コメント

この度は表彰をしていただき誠にありがとうございます。式根島の農業に二十年携わってきた身として、評価をしていただき、身に残る光栄を感じています。近年、式根島にも若い農業従事者も増えてきており、これからは一層皆様の力添えを頂きながら地域振興の一環として農業を盛り上げていけるよう頑張っております。



▲ 奥山敏仁さん

令和5年度、新島村農業委員会からの推薦により、式根島主に「あめりか芋」を生産している奥山敏仁さんが表彰されました。この表彰は、自然環境に厳しい島の条件のもとで、積極的に営農に精進し、農業者の中核的役割を担い、地域農業の推進と発展に寄与された方に贈られるものです。

おめでとございます。

島嶼農業委員会
協議会表彰

農地を10年以上貸借した貸主への奨励事業がはじまりました

農地中間管理事業法により、「一定の要件を満たした借主」に、「10年以上の貸借契約をした貸主」に対して次の額を交付する事業がはじまりました。

- ・農振農用地の農地…1,000㎡あたり20万円
- ・その他の農地…1,000㎡あたり10万円

【借主の要件】

- ・貸主と2親等内以外の者
- ・次のいずれか1つ以上を満たす者
 - ①認定農業者
 - ②認定新規就農者
 - ③地域計画のうち、目標計画に位置づけられている又はそのことが確実に見込まれる者及び法人
 - ④東京農業アカデミー八王子研修農場又は東京都農林総合研究センター農業技術研修園芸コースにおいて農業研修を受講し、修了した又は修了の見込みのある者
 - ⑤東京都指導農業士又は都内認定農業者の指導による農業研修を年間250日以上受けた者（ただし、指導農業士等が貸主の2親等以内の親族でない場合に限る。）

【留意点】

- ・交付金額は、申請地の一筆ごとの面積（10㎡未満切捨）に上記の単価を乗じた金額となります。
- ・今年度中に開始した貸借は年度内に事業申請する必要があります。

【本件問い合わせ先および申請窓口】

役場 産業観光課農林係 Tel：04992（5）0284（産業観光課直通） メール：nousei@nijima.com

【申請へのステップ】

1, 農地中間管理事業法により貸主と借主で10年以上の貸借の手続きを行います。

2, 奨励金の申請は、貸借開始後に村の産業観光課農林係窓口へ行ってください。

【奨励金を返還しなくてはならない場合】

- ・奨励金交付後、10年未満で貸借を解約した場合は原則奨励金が返還となります。
- ・ただし、次の場合を除く。
 - ア、災害により耕作が困難になったことによる解約
 - イ、対象農地が公共の用に供することによる解約
 - ウ、借主の死亡、もしくは農業に従事することを不可能にさせる故障等に至ったことによる解約
 - エ、10年未満でその貸借を解約した後、6か月以内に新たな借主への貸借が行われた時

【相続登記が行われていない農地の場合】

農地の貸借契約を結ぶ際、相続登記が行われていない場合は、相続人の過半数以上の同意および書類への押印が必要になりますので、ご了承ください。

【奨励事業の申請受付について】

- ・申請書など必要書類につきましては、農林係にご用意しております。
- ・今年度の受付の〆切は令和7年3月14日（金）とさせていただきます。



▲水の足りないサツマイモと里芋

4月に里芋の植え付け、5月から6月にかけてサツマイモの植え付けが終わり、順調に成育するはずだったのですが、昨年と同じ梅雨時期に大した雨が降らない状態が8月まで続き、畑に植付けた作物が悲鳴を挙げている状態です。特にサツマイモと里芋。今の時期、サツマイモは根が伸び始めて芋が出来始める時期ですが、畝の中を見ると中に水気がない状態です。

かん水のやり方はスプリンクラー設置と、畝と畝の間にかん水と二通りありますが、どちらも長所・短所があります。今、どちらも試していますが、畝間に流すと畑の勾配がある程度ないと水が流れていかない。欠点は土が砂地の本村地区では向いてないかも。長所は土が十分に水分を蓄えるので、ある程度の補水効果があり、日中日が差しても葉がしおれることが少ない。スプリンクラー設置では設備投資が必要です。また、水圧のない広い場所に設置すると台数が必要になり、まんべんなく

青山ファーマーズマーケット



昨年に引き続き今年も青山ファーマーズマーケットに出店して来ました。昨年は天候に恵まれず2日間とも雨でしたが、今年は晴れの予報。前回は雨にも関わらず、持って行った分は全て売り切れたので、今年は晴れと言う事もあり、前回の倍の量を用意しました。

前以て事務局に品物を送っておくと当日会場に用意されているので荷物を持って行く心配は無いです。長年に渡り開催されているので事務局さんの手際も良く、自分たちの陳列棚は自分で作るのですが、システム化されていて、あっと言う間に陳列棚ができ、そこに「しまたま」を陳列すれば出来上がりです。

野菜の1品勝負は長年のマーケットでも初めてだと事務局さんには言われました。

かん水ができない様な気がします。

里芋ですが、今、若郷久田巻で耕作している高齢者の人たちから見ると、まだヒヨコの私が何を言っているかと思われるかもしれませんが、畑に農業用水のない時代の人たちはあまり作物に水をまくことをしない様な気がします。ただ作物がほしがる量の水が無いとうまく生育できない様な気がします。

今後も降水量があまり見込めない状態で、この時期にうまく水やりができないと茎が萎れて蒸しイモになってしまふと思います。農薬用水が安い単価で使用できるので、使用してみてもどうでしょうか。

農業委員 北村 一男



◀▲水が充分で元気な状態のサツマイモと里芋



開催時間になるとあつと言う間に人が流れ込んできて、珍しそうに「しまたま」を眺め、チラシと共に2〜3個お買い上げ頂き、翌日追加で購入する人が多くいました。中には近隣の飲食店のシェフ達もあり、「来週も出ます?」と言われたので、「毎週は無理ですが通販やつてます」とチラシを渡し、新規の販路を探ります。

他の出店者は多品目の野菜を売っている店舗が数軒で、後は加工品の販売が多かったです。特に多かったのが蜂蜜屋。パン屋、花屋、隣はキノコ屋等、色々な店舗があり見て廻るのも楽しいです。販売の他、飲食店では自然薯のとうろ飯、フランス黒鶏プレノワールの焼き鳥、そしてビーガンラーメンと中々の拘り出店者ばかりです。お昼にはビーガンラーメンを頂きました。2日間とも晴天に恵まれ、強気の値段設定で販売しましたが、持っていた「しまたま」は全て売りきって来ました。また来年も出店したくなる青山ファーマーズマーケットでした。

農業委員 内藤 政之



▲3ヶ月で2mに成長するパパイヤ

皆さんも一度は新島村農協を利用したことがあると思います。が、農協には「直売」という農家が気軽に作物を出品できるシステムがあり、農家には必要不可欠な神システムです。

農協の組合員（出資金1口千円を納めるだけ）であれば、大抵の作物は早く取り扱ってもらえますし、農作物のみならず加工品等も出品できます。

取引の方法は「受託販売」で、売れた商品に対して十五%の手数料を控除した金額が支払われます。

時季にもよりますが、農協の野菜売り場を覗いてみると、タマネギ、明日葉、島ラッキョウはもちろんのことケール、パクチー、白ナス、青パパイヤ等なかなか手に入らない商品まで並んでいます。

自分が食べたい野菜を作るのが基本ですが、誰も作っていない野菜に挑戦してみたり、最近では土壌や菌の勉強をしたり、と趣味とはいえないかなかに「ハマって」おります。

農協から「完売しました」という一報に「喜一憂し」、「もつとある?」とか「またお願いします」などと追い打ちされてしまうと、調子に乗って老骨に鞭打ってしまう今日この頃です。

皆さんも一度利用されてはいかがですか?少量でも出品できますし、肥料代や資材代ぐらいいは簡単に稼げますし、ハマること請け合いです!

最後に、さも自分でやっているように言っていますが、作業の殆どを担っているのはうちの家内です。私は水やりしながら虫を見ては悲鳴を上げているだけなので。

農業委員 吉見 一之

式根島の伝統を絶やさない



たそうだ。苗の植え付けや草むしりなど「中高年にはきついなあ。」と何度か思ったらしい。それでも頑張るのは、葉がいきいきと育つのが嬉しいことや、たくさん収穫して何を作って食べようかなと心躍らせているからだ。

二人は、あめりか芋作りに挑戦しながら、「未来の式根島への懸け橋になったらいいな。」「芋でつながる芋リレーだ。」なんてかっこいいことも言っている。

収穫の時、「やったあ。」あははは。「そんな二人の明るくて大きな笑い声が式根島に響くのが楽しみだ。

二人のあめりか芋リレーに参加する若者がいる。関口晋平や竹村純菜ら若者たちだ。未来を担う若者たちがあめりか芋の伝統を広げ、受け継いでいってくれたら嬉しい。

最近では小学校の副校長である福田智司先生(写真前)も私の畑を手伝ってくれている。「土を触るのは落ち着く。」と畑仕事に興味をもって、家庭でも野菜を育てている。嬉しい限りだ。

これからも式根島の伝統「あめりか芋」を守り、伝えていってくれる人が増えてほしい。

農業委員 奥山 敏仁